

# 第1学年 学級活動 学習指導案

八王子市立由木西小学校

平成24年10月26日（金）5校時

1年1組 男子7名 女子7名

## 1 単元名「すききらいをしないで食べよう」

### 2 ねらい

自分の食生活に関心をもち、食べ物が体の中で大切な働きを知り、好き嫌いをしないで食べようとする意欲を育てる。

### 3 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
これから好き嫌いをしないで食べようとする意欲をもつ。	好き嫌いをなくす自分なりの方法を考えて伝えようとする。	食べ物が体の中で大切な働きを知ることを知る。

## 4 研究主題とのかかわり

### (1) 食の視点

- ・ 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。

### (2) 題材について

第1学年では、食育関連の学級活動の内容を「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」としている。〔共通事項〕(2)のキ

「望ましい食習慣の形成」とは、児童が食に関する知識や能力等を発達段階に応じて総合的に身に付けることができるよう、学校教育全体で指導し、給食の時間はその中心的な指導の場となる。

給食の献立は、児童の成長に必要な栄養がバランスよく摂取できるよう立てられている。給食には、児童が苦手とする野菜も毎日のように出ている。野菜などを好き嫌いせずバランスよく食べることで、病気や生活習慣病を予防し健康に過ごすことができる。また精神的にも安定する効果があるといわれている。それだけに、心身の発達がとても大切な時期にある1年生にとって、野菜などを好き嫌いせずバランスよく摂取することは重要であると考える。

## 5 児童の実態

入学以前の幼稚園や保育園で給食を食べたことがある児童は11名、全く食べたことがない児童は3名だった。給食の時間には毎回栄養士が教室に来て、食事のマナーや旬の食べ物、その日の食材の栄養についての給食指導を行ってきた。

給食についてのアンケート調査では、給食が好きと答えた児童は12名で、理由はおいしいから、嫌いだと答えた児童は2名で、理由は嫌いなものがあるからだった。給食を残さずに食べているか？では、残さずに食べるが7名、時々残すが5名、よく残すが2名だった。給食を残す理由として、嫌いなものが出るから、時間がないから、量が多いからの理由が挙げられた。嫌いな食べ物としては、ピーマン・ナスなどの野菜が多く、反対に好きな食べ物は、ラーメン・ご飯・肉を挙げている。

9月には、生活科見学に持っていったお弁当の中身を振り返りながら、エプロンシアターによる野菜の大切さ（働き）について学習した。児童は給食を好き嫌いなく食べたほうがよいと

思っているが、どんな食べ物が自分の体にどのようにいいのかがはっきりとわかっていない。食べ物には野菜以外にどんな働きがあるのかを知ったうえで、嫌いなものでも食べてみようという意欲づけをさせたい。

## 6 指導の具体的な手立て

### (1) アンケートの活用。

事前に給食について考えようというアンケートを取り、児童の実態把握をするとともに、個に応じた指導に生かしていく。

### (2) 実際の給食や食べ物カードの提示。

当日の給食・写真や入っていた食べ物カードを黒板にはることで、視覚的にもとらえさせ、学習への関心をもたせる。実際の給食の食べ物から、好きな食べ物や嫌いな食べ物の理由を発表し合い、なぜたくさんの食べ物を使うのか？自分の嫌いなものが入っているのか？の理由を考えることで、給食の意味を考えさせたい。また、「すききらいをそのままにしておいていいのか」という問題意識をもたせる。

### (3) 栄養士によるティームティーチング。

栄養士が給食に出る食べ物の例を挙げて、3つの食品の分類（赤・黄・緑色）とその働きを話し、食べ物と健康の結びつきについてとらえさせる。食べ物が自分の健康にどのように大切であるかを確認させたい。「すききらい」を今後どうしていきたいかを考えさせて「バランスよく食べる」ことの意欲づけをしたい。その際、お互いの話を聞き合うことによって、よさを分かち合う。

事後指導として、教師が給食指導で励ましの言葉を送ることで継続する意欲をもたせたい。

## 7 本時について

### (1) ねらい

- ・ 食べ物が体の中で大切な働きを知ることを知る。
- ・ 好き嫌いをなくす自分なりの方法を考えて、それを伝えようとすることができる。

### (2) 展開

児童の主な活動	○指導上の留意点 ☆評価
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <h2 style="margin: 0;">すききらいについてかんがえよう！</h2> </div>	
1 今日の給食の献立に入っていた食べ物について思い出して、発表する。	○ 今日の給食（実物・写真）から、どんな食べ物が使われているか、興味をもたせて、予想させる。
2 入っていた食べ物の中で、好きな食べ物、嫌いな食べ物、その理由をワークシートに記入して発表する。	○ 給食の献立表に紹介されている食べ物をカードや実物で提示する。（15種類くらい） ○ 理由については、子どもたちの五感を大切にしながら、自由に考えて発表するように声をかける。
3 給食には、なぜたくさんの食べ物を使っているのか？なぜ嫌いな食べ物が入っているのか？を考えて話し合う。	○ 給食に入っている食べ物には、大切な働きがあることを知らせて、次の栄養士の話への関心を高める。
4 食べ物が、健康のためにどんな役割を果たしているのかを知る。 赤→体を大きくする/血や肉や骨になる 黄→元気のもとになる/熱や力になる 緑→体を調子よくする/病気になりにくい	○ 栄養士が、赤の食品・黄色の食品・緑の食品に当てはまるカードを1つ選び、それぞれの食品の役割を話す。 ○ 3つの分類について、栄養士の話によって、食品と健康への関心を高める。
5 残ったカードが、3つの分類のどこに当たるかを考えて分類し、自分がワークシートに記入した食べ物の役割を記入する。	○ カードを3分類に分けることで、食べ物と3つの働きを意識させる。 ○ 食べ物と役割についてワークシートに書いて確認させる。
6 どうしたら嫌いな食べ物でも食べられるようになるかを考えて発表し合う。	☆ 食べ物が体の中で大切な働きを知ることを知る。 <食育>
7 これからの給食の取り組み方について確認をする。	○ 嫌いだった食べ物が食べられるようになった児童の体験談を紹介してもらうことで、これからの意欲づけをする。  ☆ 好き嫌いをなくす自分なりの方法を考えて、それを伝えようとする。

～ すききらいについてかんがえよう ～



なまえ

すきなたべもの

すきなりゆう

やくわり

きらいなたべもの

きらいなりゆう

やくわり

すききらいをなくすには？